

ちこり通信 2018

第11号 (2018.7.1)
発行: 獨協大学地域と子ども
リーガルサービスセンター



センター長からのご挨拶

地域と子どもリーガルサービスセンター長 花本 広志

夏空がまぶしい季節となりましたが、みなさまにおかれましては、それぞれの領域においてますますご活躍のことと拝察いたします。また、日頃より、当センターの活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、当センターも12年目を迎えることができました。従来どおり、相談支援の活動や連携及びネットワークのための活動、および大学、専門相談、法教育ワークショップや高校生裁判員模擬裁判などの子ども向けの企画、研修会の開催などの活動を、「子どもの最善の利益のために」を理念として実施してまいりますので、今年度もよろしくお祈り申し上げます。

さて、昨年度は、10周年記念誌発刊の関係で、ちこり通信はお休みしました。この間、スタッフに変動がありましたので、この場を借りてお知らせしておきたいと思っております。

まず、昨年度いっぱい、長らく相談員としてご活躍いただいた高坂里緒さんが退職されました。明るく元気な高坂さんが退職されたのはとても残念ですが、他方で、一昨年度からは、以前にセンターの事務と相談を担当していただいていた木下沙綾香さんが相談員として復帰し、昨年度からは内山明子さんにも再び相談員として活躍いただいています。星島由香さんももちろん健在です。また、昨年度からは、事務担当として遠山直子さんにも来ていただき、IT担当の斎藤恵美子さんとともに、センターの事務方を担っていただいています。

その一方で、私のセンター長としての任期も2期・3年目となりました。当センターの位置づけが法科大学院付設機関からエクステンションセンターの一部門へと変更されたなか、本学における当センターの意義について、広く学内的な理解を得るとともに、新たな位置づけに伴う新たな意義を見出ししていきたいと考えているところです。今後も引き続きよろしくお祈り申し上げます。

目次

ページ	
1	センター長からのご挨拶
2	2017年度 センターの相談支援 活動の概要
4	おやこ大学
5	とらいあんぐる
6	ペアレント・プログラム
7	おやこ大学だより
8	2017年度開催 草加市・獨協大学地域と 子どもリーガルサービスセンター 共催講座
10	2017年度 開催イベント
11	2018年度 開催＆開催 予定の講座・イベント
12	*ユニフォームを作りました *工作をしよう! *センター事務局だより



2017年度センターの 相談支援活動の概要

(センター長: 花本 広志)
(IT担当: 斎藤 恵美子)

2017年度の新規相談件数は、135件で、一般相談が104件、コンサルテーション(子どもに関わるNPO、学校、行政機関等から、子どもや親、関係先への対応や連絡先について寄せられる相談)が31件でした。2018年度に継続している件数は47件あり、これに新規受付件数を加えると、相談ケースの総数は182件でした。

新規相談件数のうち、88件は、センターによる相談・助言で、23件は専門相談で対応し、24件は他の専門機関等への紹介・移管等を行いました。

新規相談件数のうち、122件は埼玉県内からのものであり、埼玉県外は5件、不明は8件でした。新規相談の内容(※1)は、2017年度も、発達障害、子育ての不安、不登校・引きこもり、家族関係・親子関係の問題、子どもの心理面での不安、離婚・DVの問題、養育・親権の問題、など多岐にわたっています。

家族関係・親子関係の問題、子育ての不安は、例年多く寄せられる相談内容です。また、学校等の対応への苦情等についても、毎年相談が入ります。相談内容はケースごとに異なるものの、学校等と保護者の間に立った調整・支援については、一定のノウハウが蓄積されています。

2017年度の相談対応件数は、のべ1078件でした。例年どおり、電話での相談対

◆2017年度新規相談件数

一般相談	104
コンサルテーション	31
計	135

◆新規相談対象者の所在地

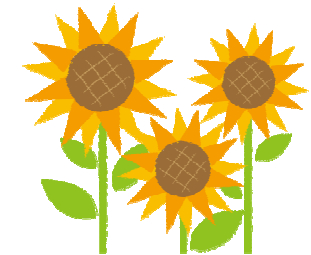
埼玉県内	122
埼玉県外	5
不明	8
計	135

◆新規相談の支援等の状況

	初期対応	その後
相談員による聞き取り助言	88	57
専門相談へ	23	45
他機関等へ紹介	13	18
その他	6	9
他機関連携	5	6
計	135	135

◆2017年度の全対応相談件数

2017年度新規受付	135
2016年度以前からの継続	47
計	182



◆新規相談の内容

発達障害	25
不登校・引きこもり	14
家族関係・親子関係の問題	14
養育・親権の問題	11
子育ての不安	11
法的支援	10
離婚・DVの問題	10
学校等の対応の問題	8
子どもの心理面での不安	7
その他	6
犯罪被害	5
虐待・養育困難	4
就学・進路の問題	4
いじめ	3
子ども同士の人間関係	2
非行・虞犯	1
総計	135
計	

◆相談方法

電話	790
来所	207
その他	46
訪問	22
メール	13
計	1078

◆相談対応内容分類

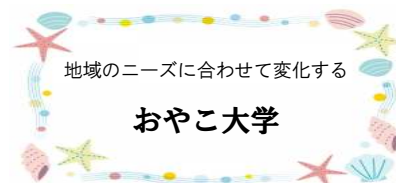
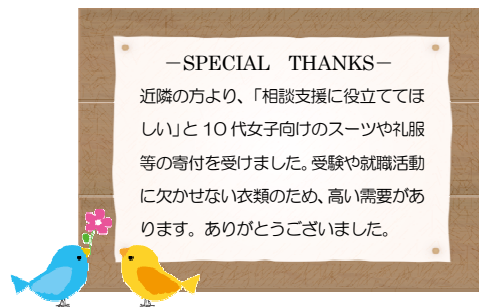
相談	647
連携・調整	207
その他	190
観察	22
経過観察	7
紹介	4
付添い	1
計	1078

応が大半を占めています。初回の相談は電話で受けつけており、その後は、電話相談、来所による面談、家庭訪問、診察への同行や学校等との話し合いの場への同席などを行っています。ある程度長期にわたり継続支援しているケースについては、メールによる相談を受ける場合もあります。

相談内容は、ケース毎にさまざまであるため、各ケースに応じたオーダーメイドの対応を行っています。相談スタッフによる傾聴や情報提供で終結する場合もありますが、医療、心理、教育、福祉、行政、法律等の各分野との連携を行い、支援のネットワークを構築する場合も多くあります。

相談以外の対応では、2017年度も引き続き、学校と相談者との間に入って、問題解決に向けた話し合いの調整等を行うケースが大きな割合を占めています。

※1 相談内容については、1件の相談内容が複数の項目に該当する場合も少なくありませんが、その場合は、相談者の主訴に合わせていずれかの項目に振り分けています。



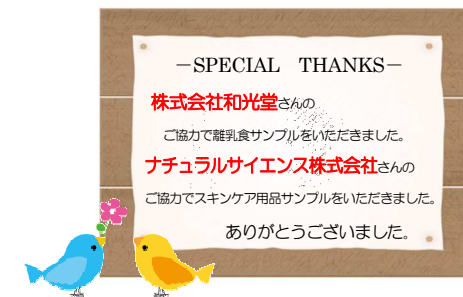
(相談員：星島 由香)

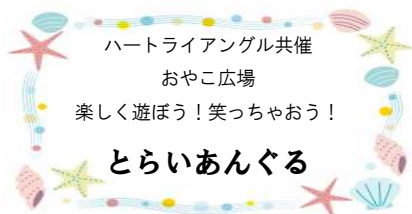
センター開所間もないころ、「相談対応の他に、問題や課題の予防となるような活動ができないだろうか」と毎日のように相談員で案を出し合っていたことを、懐かしく思い出します。みんなで考えに考え、絞りこまれた結果、母子分離型講座「親子大学」が生まれました。当初は母親が講座を受けている間、お子さんに「小麦粉ねんどで遊ぼう」や「大きな積木で何つくる？」などテーマのある活動で託児サポートをしていました。その後、近隣親子さんのニーズや草加の子育て事情を調査し、新たに「おやこ大学」が誕生しました。新「おやこ大学」は2010年度から開催しており、これまでにおよそ300組の親子さんが受講されました。修了生さんの中には、入園、入学など節目のたびにお願いくださる親子さん、近況報告やお手紙で成長を知らせてくださる保護者さんもいらっしゃいます。このような関係が築けたことで、「当初考えていた通り、予防効果あったなあ〜」と静かに(そしてちよっぴりニヤリと)感じているところです。

毎年、前年度に講座を修了された親子さんには、自主活動でセンターご利用を継続していただいております。地域で活躍するママ講師の講座を受講したり、センタースタッフが手作り制作のお手伝いをしたり、子連れランチやお出かけなど、様々なアイデアで皆さん関係を深めています。

早期に復職するママさんもいらっしゃるのですが、たとえ活動に参加されなくても、いつでも連絡が取れるので、情報交換などのやりとりは続いているようです。私たちはそんなこぼれ話がとても嬉しいのです。

私たちが蒔いた種が、芽をだし成長し、木になり実をつけてくれました。ただその木に名前はがありません。皆さんと試行錯誤しながら、時間と気持ちを共有し、大切に育ててきた事実があるだけ。でもそのことがとても重要だと感じています。今度この実は、どんな種を落とすのでしょうか。まだまだ進化し変化し続ける「おやこ大学」。この大切な実の育ちを、地域のみなさんとともに楽しみたいと思っています。





(相談員：星島 由香)

年 3~5 回ほど開催している「およこ大学」は、募集開始とともに定員になり、多くの親子さんにキャンセル待ちをしていただくことが課題となっていました。その対策として、2017 年度からハートライアングルとの共催で「およこ広場」を月に 3 クラス開催しています。

月年齢、個人差に配慮し、ベビー、ちいさいこ、おおきこくらすで、タッチケア、手遊びやわらべ歌、ふれあい親子遊び、リズム、絵本、工作、ママ同士の情報交換タイムなどを行います。1 時間の中にプログラムがバンバンに詰まっています。

プログラム以外にも、ママの子育て相談を受けたり、子育て情報を発信したりと、親子さんで気軽に気楽に安心して利用できる場となるよう、心がけています。ここで知り合いになり、子育て仲間の輪が広がっていると聞き、とても嬉しく思います。

広場の活動で気を付けていることは、「子どもが主役」ということ。ママやパパ、私たちは、お子さんの成長をサポートする支援者であるということ、意識することで。たとえば、もう少しで寝返りをしようという子がいたら、その子の背中を押して「くるっ」とひっくり返すのではなく、そのあと一歩のところをやきもきしながら見守ること。工作の時、大人が手を出してやってしまうのではなく、「手伝って!」の視線を感じた時、少しだけサポートし、あとは任せ、自分でできた! という満足感を感じさせてあげること。そしてこの達成

感と喜びを心から一緒に喜んであげること。人と比べてできたとかできないとか、上手とか下手とかではないということ、大人の私たちがしっかりと心に留めて、子どもと向き合うことが大切だと強く感じています。

この活動を通じて気づいたことは、私たちはいつも支援者ではないということ。ご参加くださるお子さん、親御さんから、気持ちを共有する楽しさ、安心、シアワセをたっぷりいただいていますから。

子どもも大人も一緒に成長していくことができるおよこ広場。まだまだ続けていきたい活動です。



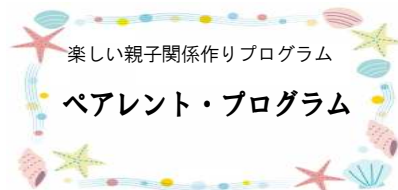
ベビー
クラス



小さい子
クラス



大きい子
クラス



(相談員：内山 明子)



日々において、子どもの発達について心配する親からの相談は、ここ数年増えていきます。子育てしにくさを感じる親への対応を更に向上したいと考えていたところ、NPO 法人アスペ・エルデの会と埼玉県発達障害総合支援センター共催研修である「ペアレント・プログラム実施資格」を相談員 2 名が受講し今年 3 月に修得することができました。

そもそも、ペアレント・プログラムが生まれた経緯は、2007 年~2009 年度の厚生労働科学研究障害保健福祉総合事業「発達障害児に対する有効な家族支援サービスの開発と普及の研究」(主任研究者：辻井正次)の成果として生まれました。2008 年以降、NPO 法人アスペ・エルデの会で開発が進み、福祉医療機構等の助成を受けて全国各地で実施されはじめ、その後、2011 年東日本大震災の被災地で実施、2014 年に実施マニュアル本が初版発行、2015 年の改定後普及型のプログラムになりました。2016 年に実施資格認証制度が始まり、保育士、保健師、福祉事業所職員、臨床心理士など、地域支援者が研修を受けて実施されるようになりました。現在も実施者の数は増え続けており、今後、更に広まる傾向にあると考えます。

ペアレント・プログラムは最低限の研修を受けて、内容、時間配分、説明方法などマニュアル本を基に実施しやすいように工夫されています。プログラムの柱として

「行動で考える」「できていることをほめる」「子育ての仲間を見つける」この 3 つになっています。参加者には「現状把握表」という用紙に記入してもらい、子どもや自分自身が「できていること」を把握し、困った行動をとった時に叱ったり、自分自身を責めて改めるのではなく「できたことをほめる」ことを大切にしています。

現在、草加市子育て支援センターとの共催で「ペアレント・プログラム 楽しい親子関係作りプログラム」を 5 月から 8 月にかけて全 6 回開催しています。

講座は講師(当センター相談員) 2 名、当センタースタッフ 2 名、草加市子育て支援センターの職員、加えて、初めて実施するのに当たり埼玉県発達障害総合支援センターの職員の方にもサポート頂き参加者に寄り添うように関わる体制をとることができました。

参加者の様子ですが、講座では隣の人とペアワークや全体発表を通して学びを得ながら、自宅では習ったことを宿題で復習して日常に役立つ土台作りを積極的に取り組んで頂いております。全 6 回が終了した後、どのような変化があるのか、とても楽しみにしております。

今後ですが、講座終了 2~3 か月後にフォローアップ講座を開催する予定となっております。

<p>第1回「現状把握表を書く！」</p> <p>「いいところ」「努力しているところ」「困ったところ」について行動で書くことに取り組みます。</p>
<p>第2回「行動で書く！」</p> <p>自分と子どもについて行動で書くことを進めます。</p>
<p>第3回「同じカテゴリーをみつける！」</p> <p>ペアで相談し合いながら、書かれた行動に関して、同じカテゴリーにまとめていきます。</p>
<p>第4回「ギリギリセーフ!をみつける！」</p> <p>「困ったところ」の中でも、ここまでではできていない!という「ギリギリセーフ」をみつけていきます。</p>
<p>第5回「ギリギリセーフ!をきわめる！」</p> <p>いつ/どこで/誰と/何をしている/と困った行動がおきるのか?を考えます。</p>
<p>第6回「ペアプロでみつけたことを確認する！」</p> <p>ペアで現状把握表を検討して、今までの取り組みを振り返り、自分ができてきたことを確認します。</p>



おやこ大学だより

(事務担当: 遠山 直子)

おやこ大学だよりもおかげさまで 86 回 (2018 年 7 月時点) の発行となりました。センターの活動内容や、季節の事項、子どもに関する記事などを中心に月に一度お届けしております。

2017 年度 2 号 (5 月号) より、主に内山が記事を書き、編集を遠山が担当させていただきました。

勤務してすぐに任された仕事の一つで、何もかも手探り状態の中、月に一度発行させるという事にプレッシャーを感じながらも、なんとかお届けすることができました。

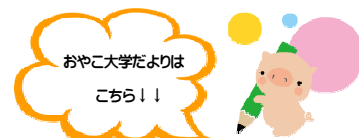
気づけば一年があつという間に過ぎ、2017 年 4 号 (7 月号) でご紹介したメダカの赤ちゃん達も、すっかり大きくなって水槽の中を立派に泳いでおります。

おやこ大学だよりの編集に携わるようになって、子どもに関する記事などを常々考えているせいか、街中でも子どもをより意識して見るようになった気がします。

私達二人も、小学生、中学生、高校生になる子どもがおりまして、子育て真っ最中ですが、小学校に上がる前の子ども達はどんな遊びをして過ごしていただろうか? 流行っている病気はなんだろうか? など、今後みなさんに読んでもらうために、内容をどうしていくか、発信方法をどうしていくべきかなど、話し合いながら作成しております。

私もたまに記事に参加させていただいておりますが、今後「子育て中のおもしろエピソード」や「昔こんなことがありました!」「これは困った!」などという記事も書いていけたらと思っております。

2018 年 3 号 (6 月号) は、獨協大学の敷地内に咲くあじさいを表紙にしました。季節の移ろいや周辺地域の素敵な景色なども、時折お届けできればと思います。そしてなにより、楽しく子育てをしていけるような記事をお送りできればと思っております。



<http://www2.dokkyo.ac.jp/~kodomolegal/newsletter.html>

2017 年度開催 草加市・獨協大学地域と

第 1 回
上手にほめる・上手に叱る
 ～して欲しいことを上手に
 言葉で伝える方法～

1 期: 6 月 24 日、7 月 1 日
2 期: 10 月 21 日、10 月 28 日

講師
 草加市子育て支援センター
 子育て支援コーディネーター

(相談員: 木下 沙綾香)

子どもたちに「ダメダメ!」「早くしなさい!」「いい加減にしなさい!」と何度言ってもやめないのは、親の言いたいことが子どもに伝わっていないのかも。

草加市子育て支援センターの子育て支援コーディネーターのお二人から、上手なほめかたと叱り方を教わりました。

子どもたちに対して、親の言いたいことを「共感的な態度で」「具体的に」伝えるにはどうしたらいいのか、親自身が感情をコントロールし、さらにそのコントロール法を子どもと共有するためにはどんな方法があるのかをロールプレイをしながら楽しく学びました。実はこの講座は参加希望者が多く、急遽、秋に 2 期を開催! お父さん、お母さんの熱心が伝わる講座でした。

第 2 回
シアワセを獲得できる
子どもを育てるために
 - 7 月 15 日 -

講師 布柴 靖枝 氏
 (文教大学人間科学部
 臨床心理学科教授)

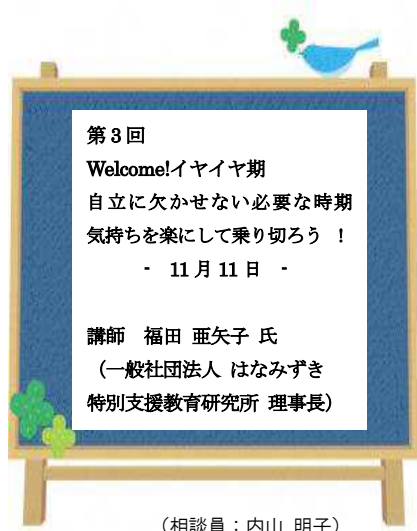
(相談員: 木下 沙綾香)

生き方が多様化してきた現代社会において、自分で自分の人生を選び取ることができるためには、自分の力で自分なりの幸せを感じられることが必要です。

文教大学から、家族心理学がご専門の布柴靖枝先生にお越しいただき、シアワセを獲得できる子どもを育てるために大人ができることを教わりました。

子どもに何か「問題」が起こると、その子ども自身を何とかしなくては! と思いがちです。しかし、目を向けるべきはそこではなく、家族内コミュニケーションの循環です。このコミュニケーションを良い循環にするために、大人が具体的にどう関われば良いかをダブルバインド理論、家族システム論等をもとにご説明いただき、その関わりが「シアワセを獲得できる子どもに育つこと」につながるということを学びました。

子どもリーガルサービスセンター共催講座



第3回

Welcome!イヤイヤ期

自立に欠かせない必要な時期
気持ちを楽しんで乗り切ろう！

- 11月11日 -

講師 福田 亜矢子 氏

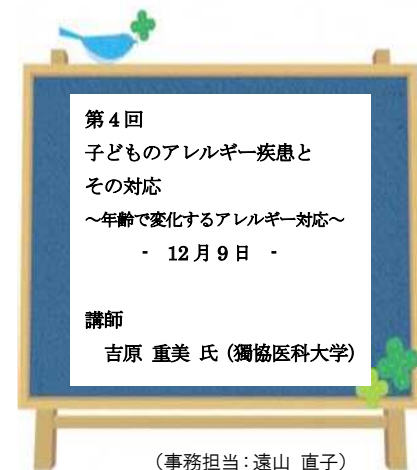
(一般社団法人 はなみずき
特別支援教育研究所 理事長)

(相談員：内山 明子)

「こうしよう」と声をかけると「いや！」と返事が返ってくるイヤイヤ期。でも、子どもの成長に避けて通ることができない時期ですよね。頭で分かっているのに「大変だな」と思うことはありませんか？

講座では子どもの発達段階に対して、「なぜこのように声かけしたほうがよいのか」を先生の丁寧な説明とともに知ることができました。受講者のみなさんも納得し思わず「そうなんだ」という思いがあったようです。

一言にイヤイヤ期と言いますが、子どもの心に芽生えた自己主張という名のイヤイヤは「イヤイヤ期」を過ぎても続きます。それを困ったととらえるのか、成長ととらえるのか、子どもの成長とともに親も考えの幅を少しずつバージョンアップできたらいいですよ。



第4回

子どものアレルギー疾患とその対応

～年齢で変化するアレルギー対応～

- 12月9日 -

講師

吉原 重美 氏 (獨協医科大学)

(事務担当：遠山 直子)

獨協医科大学小児科主任教授の吉原重美医師より「子どものアレルギー疾患とその対応」についてお話しいただきました。最新のアレルギーに関する情報から、免疫療法のお話、ステロイドの塗り方・使い方のお話、乳児湿疹を放置してはいけない理由や、「皮膚をきれいにするという事こそがアレルギーの進展を抑制することに繋がり、そのためにはどうしたらよいのか？」といった、とても重要なお話をしていただきました。質疑応答では、参加者からたくさん質問が寄せられたため、一つ一つ丁寧に回答していただきました。

2017 年度開催イベント

ー自然観察会のようすー

(相談員：星島 由香)

2017年6月9日に獨協大学経済学部国際環境経済学科の大竹伸郎先生と、近隣の草加藤幼稚園の年長さんと一緒に**自然観察会**を行いました。

伝右川に仕掛けをしたところ、ヌマチチブ(左)やテナガエビ(右上)がかり、園児さん大興奮でした。そのほかにも川でヤゴを捕まえたり、ホタルの幼虫を放流したりして、環境との関わりを肌で感じてもらいました。後日、成虫となったホタルの観察会も開かれました。子どもたちの目にはどう映ったでしょうか。

身近な自然とのふれあいを、今後も提供していきたいと思っております。



ー夏休みイベントのようすー

(センター長：花本 広志)

2017年8月21日・22日の2日間、**子ども法教育ワークショップ**を開催しました。埼玉弁護士会所属の弁護士のサポートを得ながら、1日目は、子どもたちが「調停委員」となって 身近なトラブルの解決策を考え、当事者を説得して解決に導きました。2日目は、震災遺構保存の是非について、保存派、撤去派それぞれの主張を聞いたうえで、どうするべきかを子どもたちのグループで話し合って検討しました。



また、2017年8月25日・26日には、獨協大学法科大学院修了の弁護士指導のもと、**高校生模擬裁判員裁判**を開催しました。

いずれも、市民社会の基本的なあり方を学んでもらうことを目的としています。



2018年度開催&開催予定の講座・イベント

草加市との共催 子育て支援講座
楽しい親子関係作りのプログラム
 5月23日～8月1日まで
全6回(開催中) ※本紙6頁～7頁掲載
 講師：内山明子(当センター相談員、
 ペアレント・プログラム実施資格認定者)、
 星島由香(当センター相談員、
 ペアレント・プログラム実施資格認定者)

草加市との共催 子育て支援講座
子どものアレルギー勉強会
 (開催日時は決まり次第、
 当センターHP等に掲載)
 講師：吉原重美氏
 場所：獨協大学
 対象：アレルギーを持つお子さんとご家族
 定員：30名

草加市との共催 子育て支援講座
**シアワセを獲得できる
 家族になるために**
 (開催日時は決まり次第、
 当センターHP等に掲載)
 講師：布柴靖枝氏(文教大学)
 場所：未定
 対象：保護者、子育て支援者

当センター主催
 夏休みワークショップ
目指せ!最強の交渉人
 ~弁護士から学ぶ交渉のヒケツ~
8月21日、22日
 講師：埼玉弁護士会所属弁護士
 場所：獨協大学
 対象：小学校5年生、6年生
 定員：20名

◇◆◇ その他 ◇◆◇

開催中

・<専門相談> 医師・臨床心理士・教育カウンセラー・弁護士による無料面談相談
 (日時等の詳細は当センターHPをご覧ください)

・ハートライアングル共催おやこ広場「とらいあんぐる」

開催予定

- ・おやこ大学 (開催が決まり次第、当センターHPに掲載)
- ・地域で開催される子ども向けイベント(子育てフェスタ等)への参加
- ・各所からの依頼による講演会の講師 他

終了分

・第7回日本タッチケア学会(2018年6月10日)
 学会発表「子ども・親支援におけるタッチケア効果」(相談員 星島由香)

ユニフォームを
 作りました♪

イベントなどで
 着用しています



センター事務局だより

*もう7月ですね。ちこり通信発行記念に
 暑氣払いに行きましょう? (ひ)

*センターのメダカ、3世代が孵化しました。
 来所する子どもたちのアイドルです。(☆彡)

*最近の癒しはお気に入りの誕生日を眺める事。
 こんな綺麗なものを生み出す地球すごい。(沙)

*赤ちゃんの駅やってます、お気軽に(^_^♪
 お立ち寄りください。(内)

*新編集担当でキュートにお送りする
 「ちこり通信」。読み応えたっぷり。(さ)

*ちこり通信の編集に没頭する日々…
 ようやく解放されました♪(遠)



工作をしよう!

(事務担当：遠山 直子)

暑中お見舞いなど、お便りをだす季節です
 ね。おじいちゃん、おばあちゃん、普段な
 かなか会えないお友達など、お子さんが作成し
 た夏のお便りをだしてみるのはおもしろいで
 すよね。

おりがみをビリビリ手でちぎって、のりで
 ベタベタはったり、お子様の手形をおして、
 日付を入れたら記念にもなりますし、心のこ
 もった特別なお便りになりそうですね。

~用意するもの~

- ・官製はがき
 - ・おりがみ
 - ・のり
 - ・ペン
 - ・マスキングテープ
- 等



What's 赤ちゃんの駅?

誰でも自由におむつ替えや授乳
 ができる場所として、埼玉県に
 登録された施設です。



【編集・発行】

獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター

〒340-0041 埼玉県草加市松原 1-1-10

TEL: 048-946-1781 FAX: 048-946-1782

E-mail: kodomolc@dokkyo.ac.jp URL: //www2.dokkyo.ac.jp/~kodomolegal/

相談専用電話 048-946-1771 (月曜～金曜 9時～17時)